

れる抗癌剤の著明な不均一およびその経時的变化が認められた。また、MAA の高度集積を示した部位に一致してコロイド肝シンチグラムで欠損を示し、抗癌剤持続動注療法時の局所的肝障害の予測における^{99m}Tc 動注シンチグラムの有用性が示唆された。

21. 腎における ¹²³I-ヒップラン Extraction Fraction 測定の意味

油野 民雄 秀毛 範至 横山 邦彦
高山 輝彦 松田 博史 道岸 隆敏
利波 紀久 久田 欣一 (金沢大・核)

¹²³I-ヒップラン 37-74 MBq を急速静注後、128×128 matrix の条件で、1 frame/1 sec で 80 秒間、その後 1 frame/20 sec で合計 20 分間データ収集後、左心および両腎の時間放射能曲線から、Patlak Plot 法により、¹²³I-ヒップランの腎へのクリアランス (ku) と腎内に存在する非特異的分布容量 (Vn) を求め、ku 値と Vn 値から一回循環時の ¹²³I-ヒップランの腎への Extraction Fraction (EF) 値を算出した。さらに体外計測法によるガンマカメラにて求めた有効腎血漿量 (ERPF) 値と EF 値の関連性につき検討したところ、ERPF 値の低下に伴い EF 値も有意に低下し、近位尿細管機能評価の一指標として活用しうる結果が得られた。